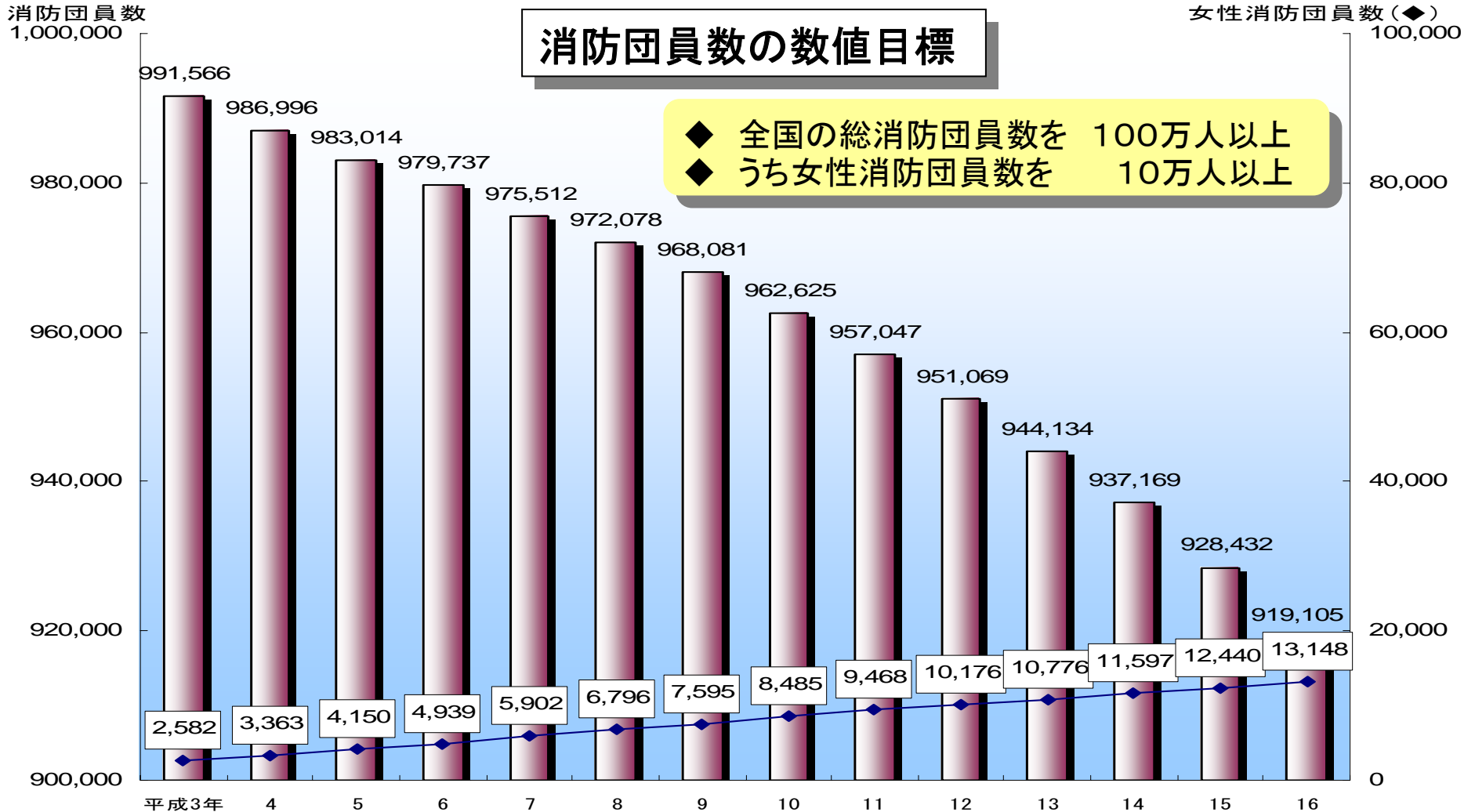


③ 消防団の充実強化と活性化

消防団の現状①(団員数と女性団員数の推移)

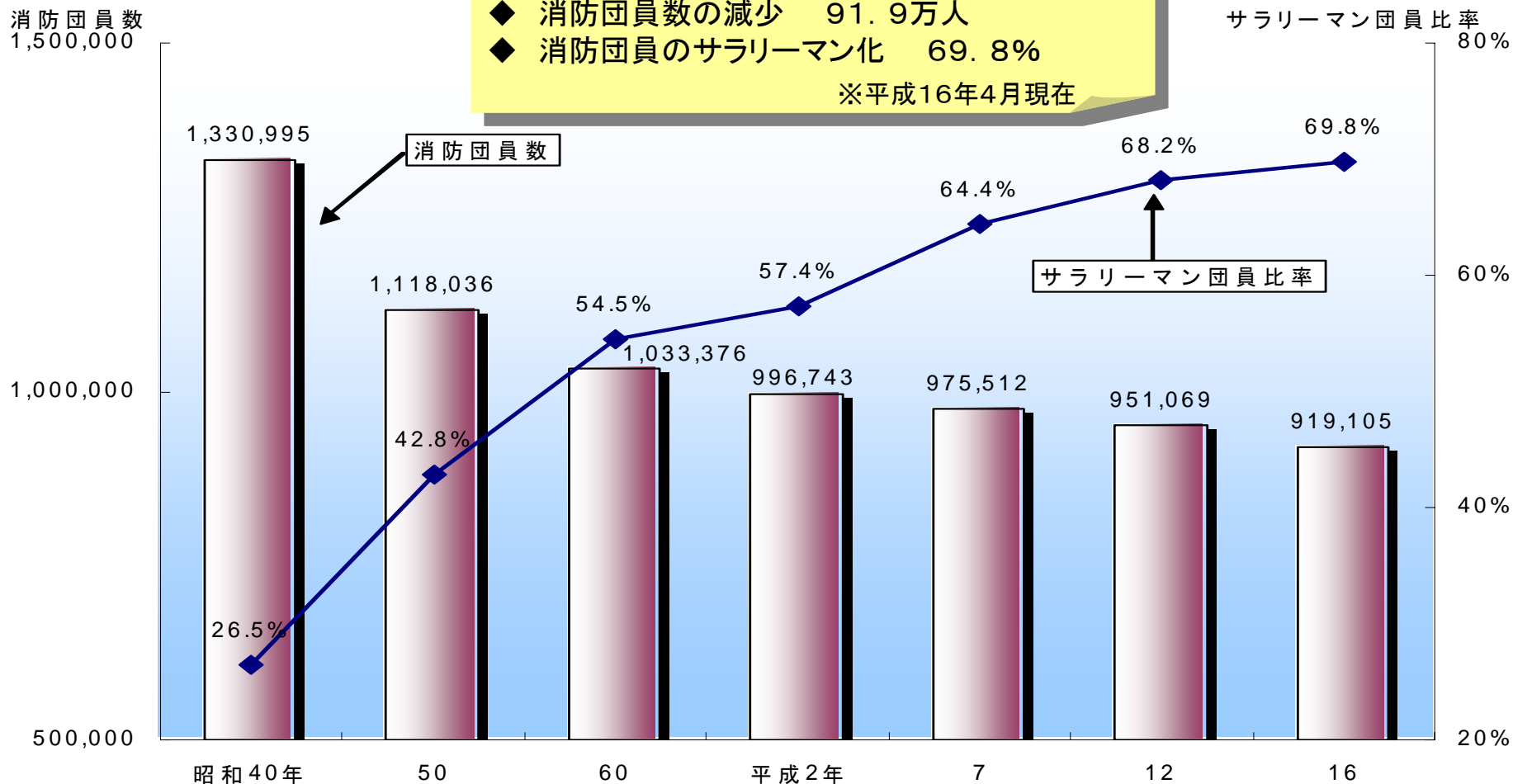


消防団の現状②(団員数とサラリーマン団員比率の推移)

消防団の現状・課題

- ◆ 消防団員数の減少 91.9万人
- ◆ 消防団員のサラリーマン化 69.8%

※平成16年4月現在



消防団員の活動環境の在り方について(概要)

《消防団の現状》

- 消防団は地域防災体制の中核的存在として、地域に必要な体制の整備が必要
- 地域人口の減少や若年層人口の減少に伴い、地域に必要な団員の確保に苦慮している消防団が見られ、全国的に団員数が減少

《基本的考え方》



住民・事業所が参加しやすい消防団の活動環境の整備という観点から、参加を促す消防団側、参加する住民・事業所側、それぞれの視点からの課題と今後の施策を提言

《検討結果》



消防団側

《地域住民、被雇用者、女性が参加しやすい活動環境》

1 消防団組織・制度の多様化

- ・各多様化方策は各市町村が実態に応じて選択して採用
- ・機能別団員・機能別分団は団員がすべての活動に参加する基本的な制度の補完制度として採用

《多様化方策》

- ① 機能別団員 (特定の活動・役割にのみ参加する団員)
- ② 機能別分団 (特定の活動・役割のみ実施する分団)
- ③ 休団制度
- ④ 多彩な人材を採用・活用できる制度

2 被雇用者団員の活動環境の整備

- ① 団員相互の支援体制の促進
- ② 消防団側の受け入れ体制の整備
- ③ 事業所との協調体制確立



住民・事業所側

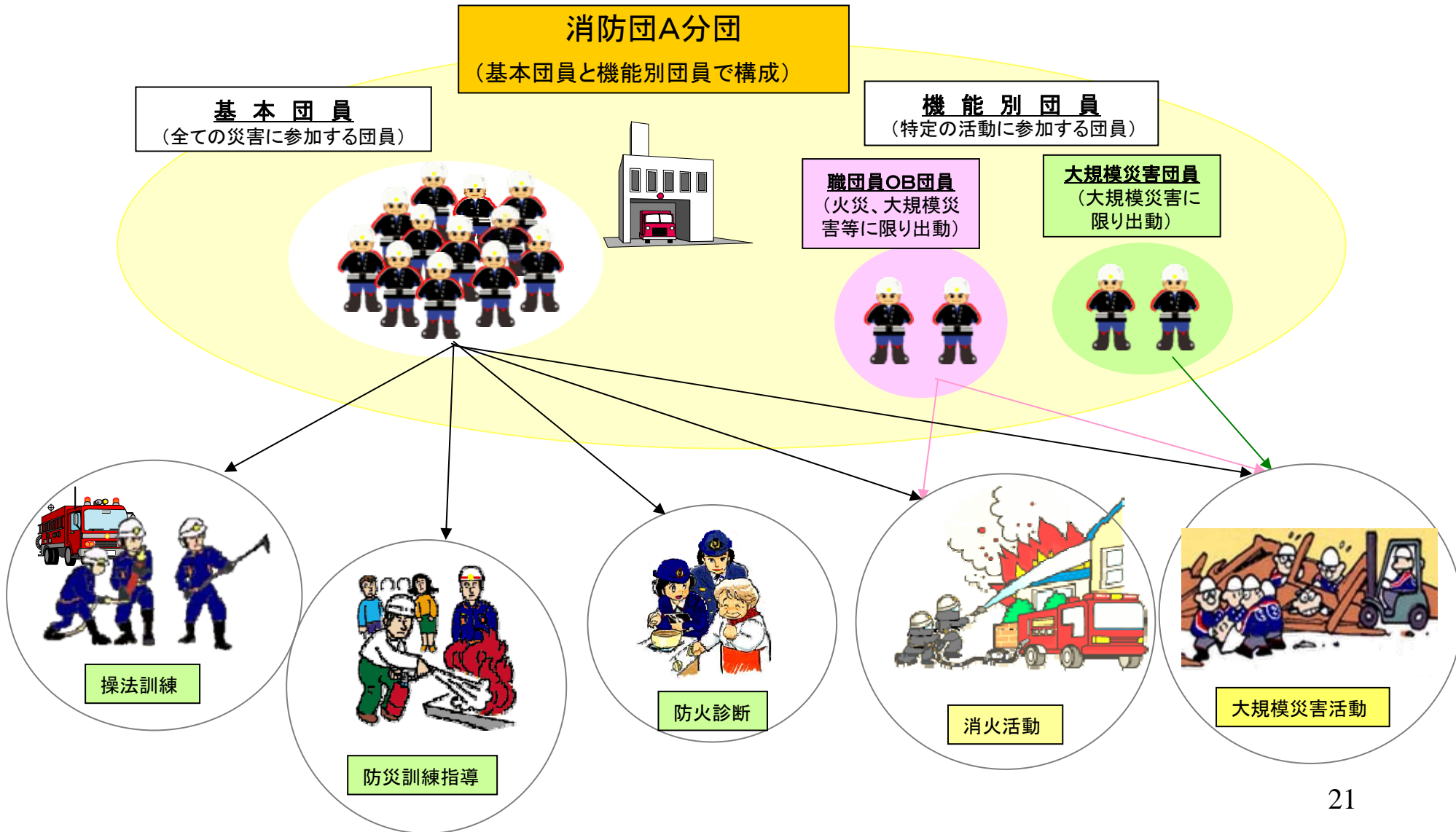
《住民・事業所の理解と協力の推進》

- 1 防災体制に関する協議の場の設定
住民・事業所を交えた協議会の設置
- 2 広報施策の更なる展開
地域住民と接する活動の積極的展開
- 3 地域の各防災組織との連携の強化
自主防災組織、婦人防火クラブ等との連携
- 4 住民意向調査の検討
消防団に対する住民意向調査の検討

《期待される効果》

- 多くの地域住民、被雇用者の消防団へ参加
→ **消防団員100万人、女性団員10万人確保**の実現
- 消防団、自主防災組織、地域住民、事業所等が一体となった地域防災体制の構築

機能別団員の活用事例

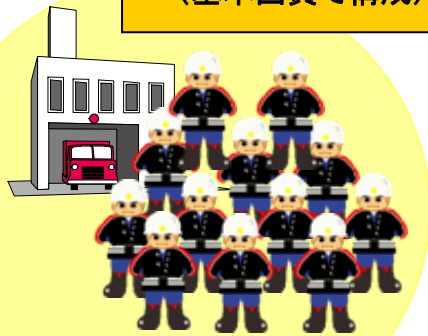


機能別分団の活用事例

機能別分団
(特定の活動を実施する分団)

基本的な分団
(全ての災害に参加する団員で構成)

消防団A分団
(基本団員で構成)



消防団B分団
(大規模災害分団)

分団員は大規模災害及び同訓練に特定し活動



消防団C分団
(予防広報分団)

分団員は予防広報活動に特定し活動、ただし大規模災害には出動



大規模災害活動

消火活動



操法訓練



防災訓練指導



防火診断



広報活動

